

2026年度
(令和8年度)

事業計画

石川県水泳協会

競技委員会



委員長 馬場 修一

昨年度は4月の石川県室内水泳競技大会白山大会を皮切りに、予定した全ての競技会を無事開催することができた。改めて関係各位に感謝申し上げたいと思う。

本年度の取り組みについては、

- ・6月に中部学生選手権、8月にスポーツマスターズをいずれも金沢プールで開催する。一昨年開催した全国中学等で培った経験を生かし、高いレベルの競技会運営を目指す。
- ・昨年度上げた取り組みで「次世代の人材を育成すること」と「安定的な人員の確保」について、本年度も継続的課題として取り組む。
- ・県内競技会では夏の猛暑対策、選手強化等を考慮し、日程を一部見直した。安全な競技会、競技力向上に繋がる競技会日程で開催する。
- ・将来を見据え、近県と連携した競技会運営の取り組みを実施する。
- ・競技会開催における正確で安定した段取りと準備の確立を図る。
- ・市町水泳協会、SC協会、マスターズ、大学等と連携した競技会運営を行うと同時に人材確保を図る。

上記6項目を事業計画の中心とし、昨年度同様に競技会を通して水泳の魅力を発信し、普及と強化を行っていくという意識を持って競技会開催事業を進めたいと思う。

(皆様へのお願い)

選手たちは競技会で「ベスト記録を出したい」「一番になりたい」など、それぞれの目標に向かって日々練習に取り組んでいます。そのような選手たちのために、今後も引き続き競技会を継続して開催していく必要があります。そのためには、競技役員が存在は不可欠です。

私たちと共に競技会を通して、選手達を支えていきませんか。当協会では競技会を運営する競技役員をしていただける方を募集しています。ご協力いただける方は下記の間合わせ先にご連絡をお願いいたします。

問合わせ先 (一社)石川県水泳協会事務局 TEL 076-214-6645
FAX 076-214-6645
メール ishikawaswim@kind.ocn.ne.jp
競技委員長(馬場携帯) 090-8967-7781

競泳委員会



委員長 元 祐 基 嘉

強化事業の柱は1・県外選手との合同練習、2・2031年北信越インターハイ強化プラン、3・医科学委員会協力事業の継続、4・県外大会派遣事業の継続。これを計画的に行う。

1に関し、春季青森合宿を計画。2026国スポ会場で、青森県、静岡県との合同合宿を計画し、国スポ対象選手から選抜して遠征合宿を実施予定。また、年間を通じ、北信越5県での合同合宿を計画。外部との交流を図り、選手、コーチともに常時刺激を受け続ける環境を整備する。

2に関し、北信越インターハイ対象世代の特別強化練習会を継続する。年々計画的に回数を増やし、徐々に合宿へと移行させていく予定。また、同世代他県との交流も含め、本年度は福井県、大阪府との小中学生合同合宿も計画。

3に関し、体力測定、柔軟測定を継続する中で、蓄積データ結果からのフィードバック研修及び対策エクササイズ・ストレッチ研修等を実施し、指導者、選手ともに知識向上を図る。栄養学研修や、トップアスリート体験談講習会等も積極的に実施する。

4に関しては、できるだけ多くの指導者を派遣し、所属外選手の指導経験を積んでいく。

全国中学では、川岸駿介選手、桜井叶花選手に上位入賞の期待がかかる。また、橘希仁選手、元祐功貴選手、大内雄太選手にも決勝進出を目指してもらいたい。

青森国スポでは、前述の川岸選手、桜井選手に得点獲得の期待をする。少年男子Bのメドレーリレーでも将来的な期待が持てるので、積極的に参加をうながし、県内での競争も活性化させたい。

(2026年度事業計画)

1 強化合宿事業

第1回	期日	3月31日(火)～4月5日(日)
	会場	青森県マエダアリーナ・富山県総合体育センター
	参加	石川県水泳協会強化指定選手55名

- 第2回 期日 5月2日(土)～6日(水)
会場 金沢プール、JSS金沢駅西スイミング
参加 石川県水泳協会強化指定選手55名
- 第3回 期日 7月29日(水)～31日(金)及び8月2日(日)～5日(水)
会場 金沢プール、その他
参加 石川県水泳協会強化指定選手55名
- 第4回 期日 9月4日(金)～6日(日)
会場 金沢プール
参加 国民スポーツ大会石川県代表選手
- 第5回 期日 12月25日(金)～30日(水)
会場 金沢プール、JSS金沢駅西スイミング
参加 石川県水泳協会強化指定選手60名

その他 ショートキャンプを適時実施予定

2 2031年北信越インターハイ強化事業

ジュニア選手(中学1年以下)選抜日帰り練習会を適時実施予定

3 医科学委員会協力事業

上記合宿や競技会期間を利用し、いしかわ総合スポーツセンター利用及び医科学委員会協力により実施

研修事業 : 女性アスリート研修、栄養学研修、レジェンドスイマーによる講義、トレーニング研修(個別含む)、ストレッチ研修(個別含む)

測定事業 : 基礎体力測定、筋パワー測定、柔軟測定、レース分析

コンディショニング事業 : 競技会個別コンディショニング 合宿ケア 国スポ帯同

4 遠征派遣事業

強化指定選手の中から厳選し、10月以降に次年度を見据えた強化策として実施予定

飛込委員会



委員長 横山 健

小学生のジュニア層において、昨年度全国JOCジュニアオリンピックカップで初出場ながら優勝した松下晴選手、6位入賞した松田世良選手の更なる上達を期待するとともに、体験受講生も含め練習生も増えてきていることから、今後も指導体制の充実も含め、普及・育成に注力していきたい。

中高生においては、選手数が少なく、まずは選手個人の競技に対するモチベーションを高める対策が必要であり、競技に打ち込む精神を鍛え、一人でも多く全国大会においての入賞者が出てくることを期待している。

成年選手は昨年度、日本学生選手権連覇、日本選手権でも上位入賞している二羽倅選手の飛躍に期待する。これまで以上に演技の熟練度を増し、ナショナルチーム入り、国際大会の日本代表選手に選出されるよう支援していきたい。

国民スポーツ大会については、日水連による大会参加者数削減調整の影響もあり、少年選手の出場が叶うかが懸念されるが、二羽選手を軸として少年選手を含めたチーム編成を目指し、12点以上の獲得を目標とする。

第9回を迎える中田周三杯飛込競技大会では、引き続き国内のトップ選手を招聘し、日水連の公認大会に準ずる大会として、県内選手のモチベーションの高揚を図る一方、海外チームへの案内告知も試み、飛込王国と言われた石川県の伝統的価値を国内外に発信していきたい。

(2026年度事業計画)

1 県内大会

- 県記録会 (5/10 金沢プール)
- 県高校総体 (6/13 金沢プール)
- 県中学校大会 (7/11 金沢プール)
- 県選手権大会 (9/6 金沢プール)
- 県高校新人大会 (9/20 小松末広屋外プール)

2 北信越・全国大会等

- 北信越JOC大会 (7/18~20 富山・高岡総合プール)

- 北信越高校大会 (7/18～20 富山・高岡総合プール)
- 全国高校総体 (8/17～20 滋賀・インフロニア草津アクアティックセンター)
- 全国中学校大会 (8/17～19 広島・福山通運ローズアリーナ)
- 全国JOC夏季大会 (8/22～25 大阪・Asue 大阪プール)
- 日本学生選手権 (8/29～30 大阪・Asue 大阪プール)
- 日本選手権 (9/4～6 滋賀・インフロニア草津アクアティックセンター))
- 国民スポーツ大会 (9/10～12 宮城・宮城G21 プール)
- 中田周三杯大会 (12/12～13 石川・金沢プール)
- 翼ジャパンダイビングカップ (3/18～21 栃木・日環アリーナ栃木)
- 全国JOC春季大会 (3/27・28 栃木・日環アリーナ栃木)

3 県選抜強化合宿

- 5月・12月・3月 金沢プール
- 11月・2月 富山県総合体育センター

4 飛込教室等

- ジュニア体験教室実施 (月1回程度) 金沢プール
- 「水泳の日」等にて飛込検定実施 (年2回程度) 金沢プール
- 夏期飛込教室実施 小松市、白山市水泳協会

5 委員会等

- 7月 国民スポーツ大会選手選考に関すること
- 10月 中田周三杯飛込競技大会実行委員会を併催
- 11月 次年度の大会運営・主要大会への役員・審判派遣等に関すること
- 2月 次年度強化対象選手について

水球委員会

昨年は、9月国民スポーツ大会水球少年男子9年ぶり3回目の優勝、12月全日本ユース(U16)桃太郎カップ13年ぶり2回目の優勝を飾ることができた。今シーズンも「水球石川」金沢市立工業高校の全国大会ベスト4以上入賞を目指す。また、A区分「小学生」、B区分「中学生男子」、C区分「中学生女子」各カテゴリーにおいて、北信越予選を突破し、全国JOC大会への出場権獲得と上位入賞を目指す。さらに、各カテゴリー混合の石川県選抜で臨む全日本ユース(U16)で、北信越予選を勝ち抜き、本選への出場権獲得、優勝を目指す。

一方で、少子化・部活動の地域展開含めチーム数並びに競技者数の激減が課題としてあげられる。現状を維持しつつも、今後はジュニアや女子の選手確保のため普及と強化を進め、中学、高校へと競技が持続できるように対策を検討しなければならない。特に、水球の競技者を確保し、どのように繋げていくか、ジュニア、女子も含めて大きな課題である。また水球の魅力もどのように発信していくか普及のために検討していきたい。いずれにしても、金沢市立工業高校を頂点・拠点とした各カテゴリー各チームの競技者について、ジュニア期から長期的視点で育成を図る基本方針を堅持していきたい。

昨年は新田一景選手((株)ブルボン、金沢市立工業高校OB)、浦縁至選手(日本体育大学)が日本代表として活躍した。また、金沢市立工業高校の松野綾祐選手も日本代表としてアジア選手権として活躍した。県内選手の日本代表としての活躍は、地元の期待を背負い希望と勇気を与えてくれる。今後も、普及・強化・運営を図り、世界に通用するような人間を育成していきたい。

(2026年度事業計画)

〈強化・普及 計画〉

1 小学生(各クラブ活動状況)

金沢ジュニア	練習日・時間	火・木曜日 19時30分～21時00分
		土・日曜日 12時00分～15時00分
	練習場所	金沢市立工業高校プール
松任ジュニア	練習日・時間	火・木曜日 18時30分～20時00分
		土曜日 12時00分～15時30分
	練習場所	松任中学校プール、松任総合運動公園プール

クレインWPC 練習日・時間 火・木曜日 19時00分～21時00分

土曜日 18時30分～21時00分

日曜日 9時00分～12時00分

練習場所 クレインプール、松任中学校プール、金沢市立工業高校プール

2 中学生(男子)

松任中学校、布水中学校 練習日・時間 それぞれ部活動の時間

練習場所 各校プール

石川イーグルス 練習日・時間 月・水・金 19時00分～21時00分

土・日曜日 高校生と合同

練習場所 金沢市立工業高校プール、松任中学校プール

3 中学生(女子)

松任中学校 練習日・時間 部活動の時間

練習場所 松任中学校プール

4 高校生(男子)

金沢市立工業高校 練習日・時間 部活動の時間

練習場所 金沢市立工業高校プール

5月GW、6月・7月予選前、8月インターハイ前後、9月国スポ前
強化遠征

5 各ジュニア大会を開催

5月：春季 6月：夏季 11月：秋季 2月：県選手権

6 北信越大会・全国大会等への参加

全日本ユース(U15)、全日本ジュニア(U17)、国スポ女子選抜チームの編成及び大会への参加

7 審判講習会

4月19日(土) 金沢市立工業高校メディアホール

8 水球体験会を開催

1月

アーティスティック スイミング委員会



委員長 鶴森千里

昨年度は全ての全国大会で入賞することができ、その結果、奈良しえり選手と延武久遠選手が日本代表派遣選考会、奈良・延武に加えて奥田朱莉選手と延武麗選手の計4名が日本代表ジュニア選考会にも出場することができた。なかでも延武（久）選手は高い技術力を持っており、ジュニア選考会では11位の結果となり、今後日本代表入りに期待がかかる選手である。

本年度は全国大会で入賞を目指すことはもちろんのこと、表彰台も視野に入れ、国民スポーツ大会では上位入賞、高得点の獲得を目指す。そのために、本年度も定期的な招聘練習を取り入れ、トップレベルのコーチのご指導をいただくと同時に、木島萌香元五輪選手にも定期的に指導していただけるよう機会を作っていきたいと考えている。また、小学生は4年ぶりにチーム競技を組むことが可能となり、全国出場に向けて取り組んでいる状態である。

その他、今年度も引き続きルール改正が続いている状態であるため、ルールの理解をしながら、滞りない運営体制を整えるために、県内大会を競技役員の経験の場とし、連携を強化する。さらに、自県で独立した大会開催が可能な審判員、TCの人員確保を目指したい。

ASの発展・強化を目指し、SNSを活用しながら、体験会の開催や県内外の初心者選手、マスターズや障がい者スポーツ選手を対象とした大会も継続し、ASを観覧する場を提供し、強化と普及を同時に進めていきたいと考えている。

(2026年度事業計画)

1 強化事業

他クラブ、他県がどの程度の難度のルーティンを泳ぐのか情報収集をしながら、演技構成を調整すると同時に、テクニカルコントローラーのチェックポイント、審判員の採点の仕方を勉強し、把握することにより、得点に繋げる。また、定期的な招聘練習を取り入れ、継続的な強化を行う。

2 普及事業

競技会やイベントでのエキシビションを行う。また、年2回の表現のみの大会を継続して開催し、誰もがAS競技を楽しみ、表現する喜びを感じられる機会を増やしていく。

オープンウォーター スイミング委員会



委員長 小坂寛之

昨年度の国民スポーツ大会は、前年と同じく男子の出場枠を確保することはできず、伏屋杏彩選手のみのお出場となった。石川県最高順位である11位以内を目標として挑んだが、結果は前年同順位の13位に終わった。4年連続で国スポ代表を務めた伏屋選手は競技を引退することとなったため、今年の戦力低下は否めないが、男子は山田晴太選手、女子は勘田百愛奈選手を中心として、国スポ2枠獲得を最大の目標として強化を図る。

地元の金沢大学に進学した宇戸斗志暁選手の影響もあり、金沢大学の選手がOWSへ参戦し、日本学生選手権OWS競技にリレー出場するなど、着実に経験を積み重ねている。委員会としては、昨年から国スポ対象年齢未満のジュニア期からの選手発掘を目的として、ジュニア強化選手を新設し、中学生3名を指定した。その結果、強化選手数は男子6名、女子4名の合計10名で過去最多となり、福井県と愛知県の競技会に多くの選手を派遣し、海での経験を積むことができた。今年も海での練習会や県外競技会への派遣を計画するとともに、中学・高校・大学の各カテゴリーに選手がいるメリットを生かす事業を実施していく。

泳力強化の取組としては、競泳委員会と連携して県競泳合宿にOWS強化選手を参加させており、所属クラブでの強化に加え、合宿参加することによって良い刺激を受けている。切磋琢磨できる機会・環境を維持するため、今年も継続的に実施していく。

(2026年度事業計画)

5月上旬	県内競泳合同練習（金沢プール）
5月31日	南紀田辺・扇ヶ浜OWS（和歌山県田辺市）
6月20～21日	オーシャンズカップ（千葉県館山市）
6月28日	福井県OWS競技会（福井県越前町）
7月25～26日	石川県選手権水泳競技大会（国スポ予選）
8月上旬	県内競泳合同練習（金沢プール）
8月下旬	千葉県OWSジュニア合宿（千葉県館山市）
9月9日	国民スポーツ大会OWS競技（青森県青森市）
10月17～18日	日本選手権OWS競技（千葉県館山市）
12月下旬	県内競泳合同練習（金沢プール）

医科学委員会



委員長 丸 一 泰 雅

選手の健康管理と競技力向上を最優先課題とし、強化選手の障害予防や合宿中のトレーナー指導、定期的なメディカルチェックを継続して実施する。具体的な支援として、競泳の県選手権や県短水路選手権に加え、3月の金沢オープンにおいてもケアブースを設置し、国スポ候補選手をはじめとする主力選手のコンディション調整を強力にサポートする。

大会時の安全対策においては、医師または看護師の派遣による迅速な救護体制を確立するとともに、夏場のWBG（暑さ指数）測定による熱中症対策や、脳振盪対応フローチャートを用いた現場での安全管理を徹底し、事故防止に万全を期す。

科学的支援事業では、金沢星稜大学等の協力を得て長水路レース分析を実施し、その対象を成年の国スポ選手まで拡大することで、チーム石川全体の技術力向上と国スポでの得点獲得に貢献する。また、中学生以上のS指定選手を対象とした強化合宿では、体力測定や血中乳酸値測定を行い、結果の即時フィードバックを通じて科学的根拠に基づいたトレーニング効果の評価を行う。

環境整備の一環として、国スポ参加選手及び保護者へのアンチ・ドーピング講習会を必修とし、クリーンなスポーツ活動を推進する。加えて、最新の医科学的知見を現場に還元するため、特に男性指導者等を対象とした月経に関する講習会や栄養セミナーを新たに開催し、選手が安心して競技に打ち込める環境の構築と指導者の資質向上を目指す。

（2026年度事業計画）

1 医科学サポート

a. 強化選手の障害予防

ここ数年で競泳選手の体幹深部筋トレーニングが普及して腰痛の発生が減少してきた半面、最近では四肢（特に肩、膝）の障害が増えています。

b. 合宿サポート

合宿においてトレーナーによるケアやトレーニング指導を行います。また、身体計測や測定の結果は即時フィードバックを行い、トレーニング効果の評価と指導に繋がります。

c. メディカルチェック

年に1回、競泳強化選手の身体計測（関節可動域、筋タイトネスなど）を行います。

d. ケアブース

競泳県選手権、県短水路選手権に加え、金沢オープン及び成年の国スポ選手を対象に行います。

e. レース分析

競泳県選手権、金沢オープンにて、中学生以上のA指定強化選手以上を対象に行います。

f. 国スポ帯同

国スポにトレーナー及びドクターが帯同します。

2 主要大会の救護

県水泳協会の主催大会に医師または看護師を派遣します。中体連、高体連の大会も一部を除いて派遣予定です。また、大会時の安全管理として、熱中症予防のためのWBG（暑さ指数）測定や、脳振盪対応フローチャートを用いた現場対応を徹底します。

3 医科学研究

毎年行っている身体計測のデータに関しては、石川県だけでなく全国でデータを集めてジュニア選手の障害予防の参考にさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

4 アンチ・ドーピング活動等

アンチ・ドーピング活動等 前述したように国スポ参加者（競泳、飛込、水球、AS、OWS）および保護者を対象に講習会を行います。また、知識不足が懸念される男性指導者（コーチ）に向けた月経講習会や栄養講習会等も、競技委員会や各委員長と相談して企画していきます。

資格指導者委員会



委員長 中 田 洋 満

昨年度実施した日本水泳連盟公認基礎水泳指導員養成講習会および検定試験には10名を超える受講者があり、ここ数年ではかなり多い受講者数となった。その背景には、全国規模の競技会引率の要件に日本スポーツ協会公認コーチ資格の保有が必須となってきていることや、中学校部活動の地域展開や小学校の水泳授業の外部委託が進むなど、環境や状況が変化しているからと思われる。よって、今後もコーチ資格の取得を目指す方が増えてくると予想されるので、コーチ資格を必要としている方への確にアナウンスし、講習会受講者ならびにコーチ資格保有者の増加を目指す。

この状況の変化は、昨年度の課題であった日本水泳連盟公認資格の基礎水泳指導員から日本スポーツ協会公認資格へのステップアップへも繋がってきており、この良い流れに乗って資格保有者の増加を進めていく。

石川県水泳協会では数年前よりインテグリティやコンプライアンスに関する講習会を進めているところだが、日本スポーツ協会では今後、日本スポーツ協会公認コーチ1・コーチ2および日本水泳連盟公認基礎水泳指導員の更新研修において、インテグリティやコンプライアンスに関する時間を必須とする案があることから、引き続き更新研修会で実施できるよう内容を検討していく。

喫緊の課題として、基礎水泳指導員養成講習会での講師の育成・検定試験の検定委員の確保が必要となつてきているので、指導員ならびに関係者各位のご協力を賜りたい。

(2026年度事業計画)

事業名	期 日	備 考
基礎水泳指導員養成講習会	10月～11月 (計2日)	白山市クレイン・クレインプール
基礎水泳指導員検定試験	11月	同上
指導員有資格者更新研修会	2027年 3月14日 (日)	詳細は決定次第案内する
新規登録および更新事務	随時	

普及委員会



委員長 澤田 一也

本年度も引き続き、県内各市町水泳協会や学校、関係団体と連携し、日本水泳連盟が推奨する「泳力検定」を中心とした普及事業を実施する予定である。

具体的には、県内3箇所において泳力検定を実施することを計画しており、円滑な運営と参加者の確保に努める。昨年度は、野々市市、金沢市、内灘町の3会場において泳力検定を実施することができ、水泳の普及および泳力向上に一定の成果を得ることができたことから、令和8年度においても同様の規模・体制を基本とし、継続的な事業展開を図る。

また、新たな取り組みとして、本年度は能登地区における泳力検定や水泳普及イベントの開催についても検討を進める。被災地の状況やプール施設の復旧状況を十分に考慮しつつ、水泳を通じた地域の活性化や、子どもたちが水に親しむ機会の創出につながるよう、関係者と協議しながら実現の可能性を模索していく。

その他の普及事業としては、関係団体が主催する水泳関連行事への協力や参加を通じ、体験型事業や水中運動の普及を図り、幅広い世代が水泳に親しめる環境づくりを推進する。

これらの地域密着型の活動を継続的に実施することで、育成の方針に示されている「水泳普及活動の積極的な推進」を図り、ジュニア層の競技会参加者数の減少抑制を目指すとともに、マスターズスイマーを含めた幅広い層の交流を促進し、水泳を楽しむ環境づくりを進めることで、競技力向上および将来的な大会参加者の増加につなげていきたい。

(2026年度事業計画)

- 6月 野々市 さわやかスポーツフェスティバル (泳力検定)
- 7月 金 沢 金沢市小学校記録会 (泳力検定)
- 9月 金 沢 水泳の日 (水中運動会・体験・クリニック)
- 10月 内 灘 チャレンジカップ (泳力検定)

<泳力検定について> 参考：日本水泳連盟 HP

- ・全国統一の泳力基準で受験し、泳力を公式に認定 ・25m以上泳げる方なら誰でも受験可能
- ・検定基準 1～7級、男女別、6歳以下～70歳以上の12区分の年齢別タイム
- ・合否判定基準 検定基準以内で、日本水泳連盟競泳競技規則に違反しないこと
- ・種目 1級 200m個人メドレー 2級 100m個人メドレー
3級 50mの4種目 4～7級 25mの4種目、級ごとタイム別

情報システム委員会



委員長 近藤大輔

競泳競技のリアルタイム速報システム Live Result Swimming (LRS) を普及させ、石川県内全ての大会で実施するよう推進していく。その他、日本水泳連盟の動向を把握し、新しいシステムなどはいち早く導入し、全国レベルの大会運営が行えるよう準備していく。

Web ページのさらなる活用も行っていく。他サービスとの連携などより利便性の高い活用方法を検討・実現し、より有効な情報を発信できるようにしていく。

また、安定した協会運営のため、情報システム関連の人材確保・育成が必要である。現状でも属人生が高い状況が続いている。専門知識・スキルを持つ人材を確保するとともに、現情報システム委員のスキルアップをはかり、カバーしあえる体制を作っていく。

(2026年度事業計画)

1 LRSの定着

石川県水泳協会主催の全競技会でLRSの対応を行う。併せて、大会観覧者や保護者等への周知・広報を徹底し、リアルタイムで記録を確認できる利便性の高い環境を整備していく。

2 WEBサイト・SNSを活用した情報発信

Instagram、Xなど、SNSを活用した活動内容の発信を積極的に行い、また、石川県水泳協会WEBサイトでは、競技会、競技結果などを日本水泳連盟のWEBサイトと連携した情報発信を行う。さらに、その他活用の検討も行っていく。

3 その他

競泳以外の競技会の運営改善

マスターズ委員会



委員長 佐藤 進

マスターズ委員会事業は、競技志向のマスターズスイマーの受け皿に加え、マスターズ水泳愛好者の仲間づくりや交流の機会の確保、県内ジュニアスイマーへの支援、県内水泳人口の裾野拡大に対する直接的・間接的な関わりの役割を担っており、本年度もこれらに資する事業を実施する。

本年度の最も大きな事業としては、日本スポーツマスターズ2026石川大会の開催があげられる。石川県での開催は3度目となるが、本大会も皆様に協力を頂き、前回大会と同様、総合2位以上の成績を収めることを目標に準備を進める。近年、本大会は900名以上の選手が参加しており、石川大会では1,000人以上の参加者が見込まれる。競技会の円滑な運営のための事前準備ならびに大会期間中の競技会運営に対しても、多くの関係各位のご協力を賜りたい。県内大会に関しては、引き続き大会運営を軸にマスターズ水泳の活性化を図ることを目指す。まず、百万石オープンに関して、昨年度は従来の1日開催に戻し、(一社)日本マスターズ水泳協会の公認大会の認定を受けて実施した結果、約50名の県外選手の参加があった。今回は大会要項の早期公開などで大会の周知を図り、県外参加者の増加に努める。

また、昨年度は、マスターズ春季大会および秋季大会に、地域クラブチームや部活動で活動するジュニアスイマーの参加を募り試験的に運用した。26年度も継続し、多様な年代・価値観を有するスイマーが一同に介し、水泳に親しむ場をつくることで、県内水泳人口の裾野拡大を図る機会の創出を目指していきたい。引き続き、県水泳協会関係者の皆様のご理解とご協力を賜りたい。

(2026年度事業計画)

期 日	競 技 会 名	会 場
4月 5日 (日)	2026年日本マスターズ水泳短水路大会石川(金沢)会場	金沢プール
5月17日 (日)	第35回いしかわスポーツ・レクリエーション交流大会スイミングフェスタ	いしかわ総合スポーツセンター屋内プール
5月17日 (日)	第16回石川県ゆーりんピック(兼)ねりんピックさいたま2026石川県代表選手選考会	いしかわ総合スポーツセンター屋内プール
8月29日(土) ~30日(日)	日本スポーツマスターズ2026石川大会	金沢プール
10月 8日(木) ~12日(月)	第41回日本マスターズ水泳選手権大会(ジャパンマスターズ2026)	宮城県総合運動公園セントラルスポーツ宮城G21プール
11月 8日(日) ~ 9日(月)	第38回全国健康福祉祭埼玉大会ねりんピックさいたま2026	川口市立東スポーツセンター
11月29日(日)	百万石オープンマスターズスイムミート2026兼第33回石川県マスターズ水泳選手権大会	金沢プール
3月14日(日)	第25回石川県マスターズ春季水泳競技大会	内灘町屋内温水プール

高体連委員会



委員長 中野克也

昨年度も県高校総体の競技運営協力に対し、感謝を申し上げる。また、8月31日に小松末広運動公園プールにて開催された県高校新人大会は、昨年度も中体連と合同で開催することができ、併せて御礼を申し上げます。小松市水泳協会においては、準備から運営まで大変お世話になった次第である。令和8年度は6月県高校総体と中体連大会を合同開催予定である。課題は多くあるが、今後も高校生が十分に力を発揮できるように、県高体連と県水泳協会を中心に競技会の準備を進め、各競技会の安全・安心に運営を行うため、各校顧問の確保と協力・理解を進めることが最も重要であると考えている。

しかし、高校競技者の減少、運動部活動の衰退、部活動顧問働き方が課題である。スイミングスクールを中心に社会体育、地域スポーツへの移行が先駆的な水泳競技であるが、学校中心とする体育行事の運営は高体連単独ではなかなか難しい課題である。今後、県市町水泳協会や各SC、県教委、県高体連など、関係機関との連携を深め取り組みたい。

競技会においては、引き続き生徒、顧問等の安全を確保し、県高校総体、県高校新人大会の運営を行いたい。

(2026年度事業計画)

◆石川県高等学校体育連盟が主催して行う体育行事

大会名		主催	共催	開催期日	会場地	会場名
石川県高等学校総合体育大会	競泳 飛込	県高体連 県教育委員会	県水泳協会	6月13日(土)	金沢市	金沢プール
	水球			6月5日(金)		金沢市立工業高校プール
石川県高等学校新人体育大会	競泳 飛込	県高体連 県教育委員会	県水泳協会	9月20日(日)	小松市	小松末広運動公園プール
	水球			11月13日(金)	金沢市	金沢市立工業高校プール

◆北信越・全国高等学校体育連盟が主催(共催)しておこなう体育行事

大会名		主催	共催	開催期日	会場地	会場名
北信越高等学校体育大会	競泳 飛込	北信越高体連 日本水泳連盟	富山県教育委員会	7月18日(土)~20日(月)	富山県	富山県総合体育センター
	水球			7月19日(日)~20日(月)		高岡総合プール
				7月19日(日)~20日(月)	長野県	長野東高校プール
全国高等学校総合体育大会	競泳	全国高体連 日本水泳連盟 滋賀県	読売新聞社	8月13日(木)~16日(日)	滋賀県	インフロンア草津 アクアティクスセンター (草津市立プール)
	水球			8月18日(火)~21日(金)		
	飛込			8月17日(月)~20日(木)		

中体連委員会



委員長 谷内 貴圭

はじめに、昨年度も県中学校体育連盟主催大会が無事に開催できたこと、ならびに競技会運営に対する多大なるご協力に、心より感謝申し上げたいと思う。

令和8年度広島全中を最後に、日本中体連主催の全国中学校水泳競技大会が終了するとの報道を受け、多方面にわたりご心配をおかけしている。そのような中、北信越中体連としては、令和11年度まで北信越中学校体育大会を開催する方向性が示された。また、北信越中学校水泳競技大会石川大会については、令和10年度の開催が予定されている。

さて、本年度は昨今の部活動の在り方をめぐる諸課題の解決に向け、中体連専門委員会として、主に三つの取組を進めていきたいと考えている。

一つ目は、大会引率者を対象とした研修会の開催である。適切な競技会運営に関する内容に加え、Web-SWMSYSの操作方法等について、地区大会や県中学校大会の機会を活用して研修を行い、円滑で質の高い大会運営につなげていきたいと考えている。

二つ目は、強化事業への積極的な協力である。具体的には、競泳競技、飛込競技および水球競技における強化練習等への支援を行っていく予定である。

三つ目として、全国中学校大会および北信越中学校大会の視察を継続的に行い、北信越・全国規模での各地区の情報を共有していきたい。学校部活動から地域クラブへと移行する過渡期にあることを踏まえ、情報の集約を図り、選手の活躍の場・発表の場の確保に努めていきたい。

(2026年度事業計画)

大会名	会場	日程	
能登地区中学校水泳競技大会	金沢プール	6月13日(土)	
加賀地区中学校水泳競技大会	金沢プール	6月13日(土)	
石川県中学校総合体育大会	水泳競技 競泳 飛込 水球	金沢プール 金沢プール 白山市立松任中学校	7月11日(土)～12日(日) 7月11日(土) 7月18日(土)
北信越中学校総合競技大会	水泳競技	富山県 総合体育センター	8月8日(土)
全国 中学校総合競技大会	水泳競技 競泳競技 飛込競技	広島県 ひろしんビッグウェーブ 福山通運ローズアリーナ	8月17日(月)～19日(水)
石川県中学校新人水泳競技会	小松末広プール	9月20日(日)	

学生委員会



委員長 安井 康平

本年度は学生間の連携強化を軸に、競技力の向上と学生主体の大会運営を推進する。

競技面では、日本学生選手権への出場を最大の目標として掲げる。特に、金沢学院大学の山下結平選手については、県内出身の大学生スイマーとして、インカレ出場権の獲得を明確な目標に据え、個々の練習において高い意識を持って記録の更新に挑む。

連携の面では、定期的な合同練習会の開催により、大学の垣根を越えた選手間の交流を促進する。ここで培った親睦を基盤に、県内競技会においては大学生全員による一体感のある応援を展開し、選手同士が鼓舞し合える場を学生主体で創出する。

運営面では、競技会における補助業務を責任持って遂行し、大会運営を技術的に支える。学生が運営に関わることで、競技会全体を明るく活発な雰囲気へ導くと共に、学生が主体的に運営業務に取り組むことができる環境づくりを行う。

普及面では、昨年度から開始したSNSによる発信をさらに深化させ、学生ならではの視点から競技の楽しさや魅力を伝えることで、水泳石川の普及促進に寄与する。こうした発信を通じて、興味関心のある学生を学生委員会の仲間として迎え入れ、組織の拡大と次世代の競技継続、さらには将来的に競技を支える人材の確保を図り、水泳人口の維持に努める。

これらの活動を通じ、学生が水泳石川を支える重要な一翼であることを自覚し、本県水泳界全体の活性化を学生委員会が中心となって牽引していきたい。

(2026年度事業計画)

大会名	会場	日程
2026年度金沢学生オープン	金沢プール	6月 7日 (日)
2026年度中部学生選手権水泳競技大会	金沢プール	6月27日 (土) ～28日 (日)
第78回西日本医科学生総合体育大会 水泳競技	金沢プール	8月 9日 (日) ～11日 (火)
第22回西メディカル学生水泳競技大会	金沢プール	8月12日 (水)

日本泳法委員会



委員長 館 農 勝 彦

本年の日本泳法研究会は、神伝流を課題として3月21・22日に児島で研鑽会（実技研修）と併せて実施され、百万石日泳会からは2名が参加する。日本泳法大会は、8月22・23日に和歌山で開催される。日本泳法大会参加に先立って夏に清記流師範を迎えて研修会を行い、練士・修水資格の合格と団体泳法競技の上位進出を目指す。研修会は冬にも予定している。また、各自の泳ぎを動画にして師範に送り、問題点と効果的な練習方法を指導してもらったり疑問点を質問したりすることにより、県内に師範不在という不利な条件を克服して日常的に技能を向上させる。思い込みで誤りに陥らないよう、研修会及び動画送信による師範のチェックの回数を増やしていく。

競技人口を増やすため、本年も県内の各種競技会でエグジビションに出演して、水中で身体を自在に動かし緊急時に命を守ることができ、高齢その他で身体に自信が持てない人でも無理なく泳ぐことができる日本泳法の特徴を紹介していく。チラシを配布する、マスコミに呼びかけ練習を取材報道してもらおうといった取り組みも継続し、見学や体験は随時受け付ける。水に慣れて水泳が好きになるための日本泳法を取り入れたカリキュラムを作成し、学校やスイミングクラブ等で教えてほしいという要望があれば無償で出向く。

金沢市水泳協会優秀選手表彰基準に日本泳法も加えることで目標を明示し、日本泳法大会での泳法競技上位や上位資格取得への励みとする。

（2026年度事業計画）

毎週土曜	練習会（11時～12時） 金沢市営西部市民プール（2月はプール休業） ※見学・体験・入会は随時受付→連絡先 080-8695-8770 谷内（たにうち）
8月 2日～ 3日	清記流師範を迎えて夏季泳法研修会（金沢市営西部市民プール）
8月23日～24日	第70回日本泳法大会（千葉県国際総合水泳場）
11月29日～30日	清記流師範を迎えて冬季泳法研修会（金沢市営西部市民プール）

障がい者水泳委員会



委員長 南 出 一 康

昨年度の全国障害者スポーツ大会では、知的障がいの選手が25m背泳ぎで金メダル、身体障がいの選手が25m自由形、背泳ぎで金メダルを獲得した。石川県選手団の中でも水泳競技はメダル獲得率が高く、今後も継続できるよう選手育成に励みたい。

また、11月に石川県短水路インクルーシブ水泳大会を初開催し、県内の大学生による補助や交流、リレーなどで良い刺激を受けた選手が多く見られた。さらに、AS委員会でもパラ選手が出場できる競技会が増え、選手にとって新たな目標ができた。

本年度は昨年度同様、石川県障害者スポーツ大会、インクルーシブ水泳大会に加え、二度のAS競技会においてパラ選手の活躍の場を設け、出場選手が増えるよう周知していく。

障がいのある人にとってスポーツは健康維持・生命維持の他、外部との交流の場として必要不可欠である。水泳が生涯スポーツとなるよう、個々に活動しているクラブや事業所とも連携をとっていく。

(2026年度事業計画)

5月10日(日)	第2回アーティストックスイミング スプリングカップ	松任総合運動公園室内水泳プール
5月17日(日)	第26回石川県障害者スポーツ大会水泳競技	小松屋内水泳プール
8月~10月	全国障害者スポーツ大会強化練習会	
10月11日(日)	第13回石川県プレゼンテーション大会	松任総合運動公園室内水泳プール
12月 6日(日)	2026年度石川県短水路インクルーシブ水泳大会	松任総合運動公園室内水泳プール